

○単元の目標及び評価規準の設定

国語科の場合、単元の目標を、次のように設定します。

- (1)の「知識及び技能」及び(2)「思考力、判断力、表現力等」の目標については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。
- (3)「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該学年の目標である「言葉がもつよさを～思いや考えを伝え合おうとする。」の部分を示す。

- 単元の評価規準は、次のように設定します。
- ◆「知識・技能」は、〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している」とする。指導事項の一部を用いて示すこともある。
- ◆「思考・判断・表現」は、〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に指導する領域を「(領域名)において、」と示し、文末を「～している」とする。指導事項の一部を用いて示すこともある。
- ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、<①粘り強さ②自らの学習の調整 ③他の2観点において重点とする内容④当該単元の具体的な言語活動> の①から④の内容を全て含め、単元(や題材)の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫して示す。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第6学年 国語科 学習構想案 1 単元構想

単元名	作品の魅力を推薦カードに書いて伝えよう「海のいのち」(発行著者「教科書」)P00～001		
単元の目標	(1) 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)オ (2) 文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕(1)オ (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕		
単元の評価規準	知識・技能 ①語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。 ②比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。	思考・判断・表現 ①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(イ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめている。(オ)	主体的に学習に取り組む態度 ①進んで登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、学習の見通しをもって、考えたことを推薦カードにまとめようとしている。

単元終了時の児童の姿
 ア 物語を読むときに表現の工夫など、言葉に注目して場面の様子や心情の変化を読み、作品の魅力を伝えようとする児童
 イ 「海のいのち」の作品の魅力を推薦カードにまとめ、伝え合おう。
 ウ 登場人物の行動や会話、情景描写などの言葉に意識的に注目し、心情を考えることを通して言葉への自覚を高めること。

指導計画と評価計画(10時間取扱い 本時7/10)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に添った評価の場面で「具体的評価規準」
一	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品の魅力を推薦カードに書く体験を通して、推薦する言語活動を行うために必要な学習について見通しをもつ。 ○ 単元の学習計画を立て、物語の構成や内容を確かめる。 	【態①】(ワークシート) 【思①】(ノート)
二	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 父の人物像から、太一の心情を読む。 ○ 与吉いざの人物像から太一の心情を読む。 ○ 母の会話から太一の心情を読む。 ○ ケエの描写から太一の心情を読む。 ○ 太一の表情の描写から太一の心情の移り変わりについて読む。(本時) ○ あと語りの場面の効果について読む。 	★【知①】(ノート) ○ 地の文にある色彩表現、会話文にある比喩などの表現の工夫に気付いている。 ★【知②】(ノート) ○ 登場人物の行動や情景を描写した語句の工夫や変化について理解している。 ★【思①】(ノート・発言) ○ 太一自身やほかの登場人物の描写などから、人物相互の関係や太一の心情を捉えている。 【思②】(ノート・発言)
三	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品の魅力を伝える推薦カードを書き、相手の求めに応じた推薦カードを紹介し合う。 ○ 単元で身に付けた力を振り返る。 	★【思②】(ワークシート) ○ 読んで理解したことを基に、自分の考えを推薦カードにまとめている。 ★【態①】(ノート) ○ 描写を基に、登場人物の関係や心情についての自分の考えを、進んで推薦カードにまとめようとしている。

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか(文末は「～している(しようとしている)子供(児童生徒)」)
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

実生活(この場合は読書生活)の場面で、学習したことを生かそうとする姿を想定して、書き表した例

- ㊦「～するときに」に、実生活の場面を示しています。
- ㊧「～を読む」に、本単元の学習内容、目標や評価規準を要約している言葉を示しています。
- ㊨「伝えようとする」に、実生活の場面でのように活動したり、考えたりしようとしているかを示しています(この場合は、「日常で読書談義ができる」ことを想定)。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

単元を通した学習課題を踏まえて、どのような視点で物事を捉えて(見方)、どのような考え方で思考していくか(考え方)を想定して、書き表した例

- ㊩「～に」に、教科等の特質に応じた見方に関する内容を示しています。(※国語の場合は、言葉への着目)
- ㊪「～する」に当たる文言に、どのように考えるのか(この場合は、心情を考えることを通して)に関する内容を示しています。(※国語の場合は、言葉への自覚を高めること)

★「単元を通した学習課題」のポイント

- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか

作品の魅力を推薦カードにまとめるという課題に取り組むことを通して、「海のいのち」の作品の魅力を見つけていくことを狙って、書き表した例

- ㊫「～を」に、学習内容や指導事項に関する言葉を示しています。
- ㊬「～しよう」に、言語活動を設定しています。※学習指導要領解説の言語活動例の活用も考えらえる。